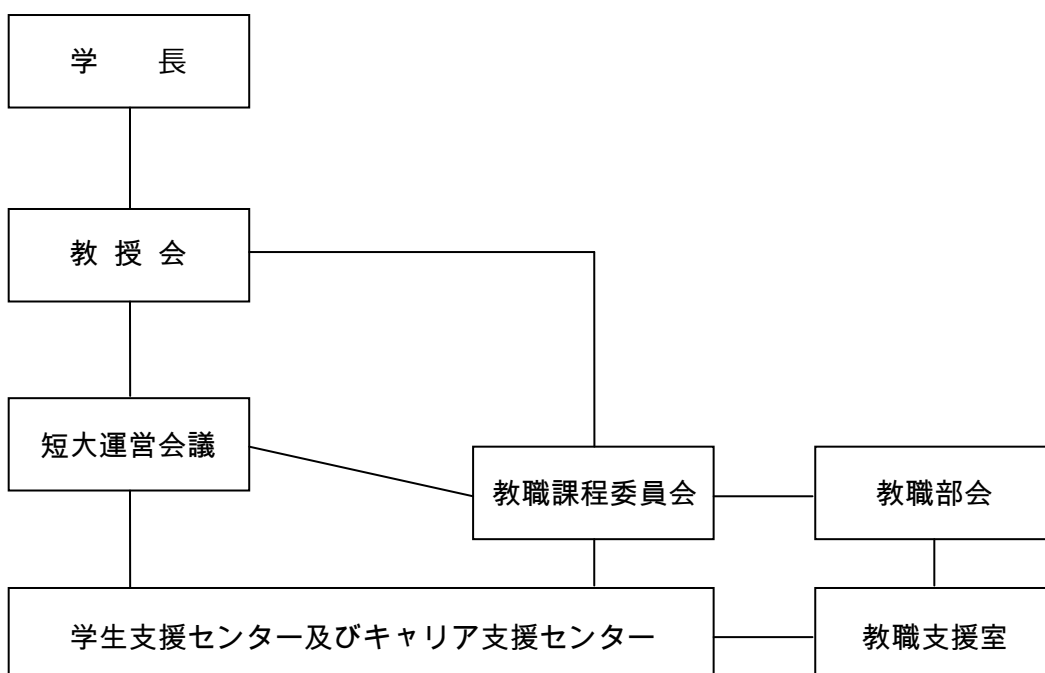


○教員養成に係る組織

組織図



○教員養成に携わる専任教員が有する学位及び業績・担当科目

教職課程教員一覧



平山 るみ (ひらやま るみ) 准教授

担当科目

教職入門Ⅰ 教育心理学 教育実習の研究 教育実習 教職実践演習(中)

所属・職位	大阪音楽大学短期大学部 音楽科 准教授
学位	修士(教育学)
学歴	2001 平成 13 年 関西大学文学部教育学科心理学専修 卒業 学士(文学) 2001 平成 13 年 京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻修士課程 入学 2003 平成 15 年 京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻修士課程 修了

	<p style="text-align: center;">修士（教育学）</p> <p>2006 平成 18 年 京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻博士課程 認定退学</p>
主な職歴	<p>2005 平成 17～2006 平成 18 年 日本学術振興会 特別研究員（DC2）</p> <p>2006 平成 18～2007 平成 19 年 日本学術振興会 特別研究員（PD）</p> <p>2007 平成 19～2009 平成 21 年 京都大学教育学研究科 教務補佐員</p> <p>2009 平成 21～2014 平成 26 年 大阪音楽大学短期大学部 専任助教</p> <p>2014 平成 26 年～現在に至る 大阪音楽大学短期大学部 准教授</p>
専攻（専門分野）	教育心理学
担当科目	「教職入門Ⅰ」「教育心理学」「特別活動の研究」「教育実習の研究」「教職実践演習（中）」
研究テーマ	心理学の中でも、主に人の思考について研究しています。どうしたら騙されにくくなるのかしら？思い込みで判断をしりせず、客観的に多面的に考えることができるようになるためにはどうしたらいいのかしら？と、批判的思考(critical thinking)について研究しています。
教育方針	授業では、知識を身につけてもらうだけではなく、教育において、また日常生活において、それらをどのように役立てることができるのかといったことを積極的に考えてもらいたいと思います。また、人や物事について、客観的にさまざまな角度から理解し、考えようとする力を伸ばしていただきたいと思います。
所属学会・団体等	日本心理学会、日本教育心理学会、日本教育工学会
最近の業績	<p>著書</p> <p>■『ワードマップ 批判的思考：21 世紀を生き抜くリテラシーの基盤』（分担執筆）2015（平成 27）年 新曜社</p> <p>証拠に基づき論理的に考えること、自分の考えに誤りや偏りがないか内省することなどを意味する批判的思考は、膨大な情報を適切に読み解き活用できるリテラシーの基盤となる。この批判的思考について、心理学、哲学、科学論などの学問的な基礎から、教授法、活用場面まで、キーワード仕立てで解説している。このうち、批判的思考をどのように測定し評価するかを紹介した「批判的思考力の評価」（30-33 頁）、必要とされる能力やスキルについて紹介した「批判的思考力の認知的要素」（34-37 頁）、必要となる態度や傾向性などの情意的要素について紹介した「批判的思考の態度」（38-41 頁）を執筆した。</p> <p>■『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』分担執筆 2013（平成 25）年 名古屋大学出版会</p> <p>「生きる力」を育むうえで重要とされるクリティカルシンキングを育むための練習帳である。遺伝子組換え作物、地震予知等々、現代社会に生きる上で必要不可欠な科学技術をテーマとした現実に即した課題設定をしており、思考力に加え、現代を生きるうえで必要な、さらに未来を創り上げていく子どもたちの教育に携わるうえでも必要となる知識を得ることができる。情報を読み解き考えるために必要なスキルのうち、思い込みによる思考の歪みについての「確認バイアスと利用可能性バイアス」（208-212 頁）および思い込みに捉われず情報を正しく理解するためのツールについての「四分割表と錯誤相関」（212-218 頁）、新たな知識や発見を作り上げていくための「予断の必要性」（223-227 頁）について執筆した。</p>

学術論文等

■『批判的思考力を育む：学士力と社会人基礎力の基盤形成』（分担共著）2011
（平成 23）年 有斐閣

情報を鵜呑みにせず、深く吟味し正しく理解するための批判的思考力は、「生きる力」「ジェネリックスキル」として初等中等、そして高等教育においてその育成が重要視されている。第 1 部では、批判的思考のメカニズム、発揮しやすい条件、測定・評価の方法等に関する理論を、日本という文化の特質、現代の社会、学生の実情もふまえての解説し、第 2 部では、実際の授業実践とそこから導き出された「育成のポイント」を紹介している。このうち、教育方法の発展のために必要な教育評価に関わるものとして、批判的思考力および批判的思考を支えるといわれる態度や能力のさまざまな測定法について紹介した。（第 1 部第 6 章「批判的思考の測定：どのように測定し評価できるか」を共同執筆、平山るみ・楠見孝、110p-134p）

■『Critical Thinking：情報を吟味・理解する力を鍛える』（分担執筆） 2010
（平成 22）年 株式会社ベネッセ i-キャリア

急速に変化し、さまざまな課題に直面する社会で必要とされる批判的思考力を育むための教材である。各章、批判的思考が必要とされる場面の身近な事例、エクササイズを含む批判的思考の解説、日常生活や専門教育の中でどのように生かせるかを学ぶ応用問題とで構成した。3 章から構成されており、批判的思考に必要な主張や根拠の同定といった議論の明確化のスキル、暗黙の前提を理解するスキル、根拠の確かさの判断するスキルを教授し高める内容となっている。このうち、根拠がどれくらい確かであるかを考えるための観点や方法について解説を執筆し、問題を作成した（第 3 章「根拠の確かさ」、39-54 頁）。（楠見孝、子安増生、道田泰司、林創、平山るみ）

■「食品リスク認知を支えるリスクリテラシーの構造：批判的思考と科学リテラシーに基づく検討」（共著）2013（平成 25）年 日本リスク研究学会誌、第 23 巻、3 号

食育基本法において、教員も正しい食についての知識をもち、指導していくことが求められているが、そのためには食品リスクリテラシーが求められる。そこで、人は食品についてどのような知識を持ち、リスクを判断しているのか、そして、適切な判断を行うための食品リスクリテラシーの獲得には、どのような要因が影響するのかについて検討した。1500 名の市民を対象に調査を実施し、熟慮的思考スタイル、批判的思考態度、学歴、リスク知識、科学リテラシーと食品リスクリテラシーの構造にどのように関わるかを明らかにした。その結果、熟慮的思考スタイルおよび学歴が、批判的思考態度に直接的に影響していた。批判的思考態度は、科学リテラシーと、メディアへの接触および食品リスク情報理解を介して、食品リスク知識に影響していた。批判的思考態度が、食品リスクリテラシーの獲得において重要な役割を果たしていることが示された。（165-172 頁）（楠見孝、平山るみ）

■「批判的思考力を育成する大学初年次教育の実践と評価」（共著）2012（平成 24）年認知科学、第 19 巻、1 号

「生きる力」「ジェネリックスキル」の中核を成すものとして批判的思考教育の重要性が唱えられるようになってきており、その教育方法を充実させることが課題となっている。そこで、大学入学後の初年次教育を通じての批判的思考を育成するための授業を行い、学生の批判的思考

を測定し、授業評価を行った。批判的思考についてのジェネラルアプローチを行い、また日常への転移を目指したワークシートを作成し実施した。また、メタ認知育成のための自己評価も毎回実施した。さらに、協調的学習に基づく、学習者インタラクションを重視したディスカッションやピア・リーディング等の学習活動を取り入れた。また、批判的思考の態度やスキルそれぞれに関わる 3 種類の教科書を使用した。そして、批判的思考態度尺度、批判的思考能力テスト、討論参加態度尺度、批判的思考遂行のメタ認知尺度によって効果測定を行った。その結果、批判的思考に関わる態度やメタ認知において、授業の前後で変化がみられた。
(69-82 頁) (楠見孝、平山るみ、田中優子)

■「日本語版認識論的信念の尺度構成と批判的思考態度との関連性の検討」(共著)

2010 (平成 22) 年日本教育工学会論文誌、第 34 巻、増刊号

知識や学習とはどのような性質を持つものかという認識論的信念は、通常授業や特別活動を含む、さまざまな場面で培われると考えられる。その認識論的信念を評価できるツールとして、SCHOMMER (1990)の認識論的信念尺度に基づいて、日本語版認識論的信念尺度を構成した。大学生 426 名に対して調査をおこない、「生得的な能力」、「じっくりした学習」、「自己努力による学習」、「単純な知識」の 4 因子から成る日本語版認識論的信念尺度を構成した。これにより、「関心、意欲、態度」を支える認識論的信念を検討し、子どもたちのもつ認識論的信念を踏まえた授業を構成していくことが可能となった。さらに、この尺度を用いて認識論的信念と批判的思考態度との関連性を検討したところ、認識論的信念の「生得的な能力」、「じっくりした学習」、「自己努力による学習」と、批判的思考態度との間に、有意な相関がみられ、どのような認識論的信念をもつかが批判的思考態度と関連していることが明らかとなった。これらのことから、どのような認識論的信念を獲得することを学校教育全般を通じて支援していくことが重要であるかといった教育目標について示した。(157 - 160 頁) (平山るみ、楠見孝)

■「日本語版批判的思考能力尺度の構成と性質の検討 :

コーネル批判的思考テスト・レベル Z を用いて」(共著) 2010 (平成 22) 年 日本教育工学会論文誌、第 33 巻、4 号

近年、「生きる力」を支える要素の一つとして、中等教育や高等教育において、批判的思考育成の試みがなされている。しかし、それらの教育評価を行うための尺度は、日本にはほとんど存在しない。そこで、コーネル批判的思考テスト・レベル Z (Ennis, et al. 1985)を用いて、日本語版批判的思考能力尺度を構成した。大学生 43 名に対し、批判的思考能力尺度、批判的思考態度尺度、認知能力尺度を実施し、尺度について検討した結果、尺度の内的整合性が得られ、課題の難易度は適切であることが確認された。また、批判的思考能力尺度得点と言語性認知能力尺度得点との相関から、この尺度には言語能力が関わることが示された。そして、批判的思考能力尺度と批判的思考態度尺度とは関係性がみられず、独立した尺度であることが示された。これにより、批判的思考能力を教育目標とした場合に、事前の生徒・学生たちの批判的思考能力の現状を把握したり、教育の成果を測定したりすることが可能となったと考えられる。(441 - 448 頁) (平山るみ、田中優子、河崎美保、楠見孝)

■「健康食品の効能とリスク判断に及ぼすサンプルサイズ情報の影響」(共著) 2009 (平成 21) 年 日本リスク研究学会誌、第 19 巻、1 号

健康やリスク情報等、食品に関する情報が溢れているが、その中には疑似科学的情報も含まれていることが問題視されている。科学リテラシー、情報リテラシーとしてこれらの情報を正しく理解、判断し活用する力を育むことが食育という観点からも求められている。そこで、自身の身体イメージへの関心が特に高い青年期である大学生に対して調査を実施し、痩身効果を謳った健康食品の効能やリスクを判断する際、サンプルサイズに関する情報がどのように影響するか検討した。その結果、サンプルサイズによってその情報の判断は異なるものであるという知識は持っており、リスク情報判断の際はサンプルサイズを考慮できる。しかし、痩身効果というベネフィット情報を判断する際には、サンプルサイズ情報を無視し、効果を判断する傾向があることが明らかになった。より正しく理解、判断する力を育むためには、食育や科学リテラシー教育において、サンプルサイズなどの科学的知識のみではなく、ベネフィット情報に触れた際の欲求の影響といった心理学的な知識も提供することが必要なことを示した。(43-48 頁) (平山るみ、楠見孝)

■「大学初年次教育におけるグループ学習と討論：クリティカル・シンキング育成の試み」(共著) 2006 (平成 18) 年筑波大学学校教育学会誌、第 13 号

欧米圏においてはクリティカル・シンキング教育の重要性が認識され、さまざまな教育実践が行われており、その教育効果や育成に関わる要因に関する検討も行われている。日本においても、教育実践例の報告はまだ少なく、また質的および量的に多面的に教育評価を行った研究は少ない。しかし、教育方法の改善のためには、単にさまざまな授業実践を行うだけでなく、評価までを一貫して行うことが重要である。そこで、半期間の初年次教育において、講義やグループでの調べ学習やディスカッションといったさまざまな教育方法を通じて、クリティカル・シンキングの育成を試みた。その結果、批判的思考態度においては、授業の事前事後で有意な差はあまりみられなかったが、討論形態や態度については上昇した。また、最終レポート課題においては、クリティカルな態度に言及するものも多く、これらはクリティカル・シンキングへの態度形成が促進されたものと考えられる。このように教育実践から評価までを一貫して行い、「生きる力」に関わるクリティカル・シンキングのより効果的な教育方法を示した。(1-15 頁) (武田明典、楠見孝、平山るみ)

■「批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響：証拠評価と結論生成課題を用いた検討」(共著) 2004 (平成 16) 年 教育心理学研究、第 52 巻、2 号

情報化社会では、玉石混合さまざまな情報があふれており、それらを正確に理解し判断し活用する情報リテラシーが必要とされる。情報リテラシーには批判的思考が関係しているが、より効果的な批判的思考の教育方法を検討するためには、まずは批判的思考の遂行にどのような要因が関わっているのかを明らかにする必要がある。また、「関心・意欲・態度」や「思考・判断・表現」が重視されているものの、そもそも批判的思考の態度を測定するためのツールが日本には存在しない。そこで、まず批判的思考態度を測定するための評価ツールとしての尺度を、調査によって作成した。その結果、「論理的思考への自覚」「探究心」「客観性」「証拠の

重視」の4因子から成る尺度が構成された。さらに、対立する情報からの結論を導くプロセスにおいて、信念バイアスや確証バイアスを回避し、情報を客観的・多面的に評価することに対して、批判的思考態度が及ぼす影響を検討した。その結果、確証バイアスの回避に、批判的思考態度の「探究心」が関わることが示され、自分が持つ考えに反する情報をも公平に検討する情報リテラシー育成のためには、さまざまな情報を求めようとする態度を育むことが重要であることが示された。(186-198頁) (平山るみ、楠見孝)

■「リスクコミュニケーションにおける対立情報回避：放射能・食品リスクに関する情報源信頼性とリスク認知」(共著) 2014 (平成26)年日本心理学会第78回大会発表論文集 (於：同支社大学) (楠見孝、平山るみ、嘉志摩佳久)

■「SNS への態度と批判的思考態度および熟慮性との関係性」(共著) 2014 (平成26)年 日本教育心理学会第56回総会発表論文集 (平山るみ、楠見孝)

■「放射能リスクに関する対立情報の統合：片面－両面提示情報源の信頼度」(共著) 2013 (平成25)年日本心理学会第77回大会発表論文集 (於：神戸大学) (215頁) (楠見孝、平山るみ、嘉志摩佳久)

■「ジェネリックスキルとしての批判的思考カテスト：得点パターンにもとづく認知的特徴の検討」(共著) 2013 (平成25)年日本テスト学会第11回大会発表論文集 (148-151頁) (田中優子・鈴木雅之・孫媛・子安増生・道田泰司・林創・平山るみ・楠見孝)

■「芸術系短大教養科目を通じての批判的思考態度の育成」(共著) 2013 (平成25)年日本教育心理学会第55回総会発表論文集 (平山るみ、楠見孝)

■「情報不十分文章に対する批判的思考における専攻の影響」(共著) 2012 (平成24)年日本教育心理学会第54回総会発表論文集 (於：琉球大学) (平山るみ、楠見孝)

■「批判的思考態度および思考スタイルの領域性：音大生を対象として」(共著) 2011 (平成23)年 日本教育心理学会第53回総会 (於：北海道学校心理士会・北翔大学) (平山るみ、楠見孝)

■「ジェネリックスキルとしての批判的思考カテストの開発：大学偏差値、批判的学習態度、授業履修との関連性の検討」(共著) 2010 (平成22)年日本教育心理学会第52回総会発表論文集 (於：早稲田大学) (661頁) (楠見孝、子安増生、道田泰司、林創、平山るみ、田中優子)

■「市民の食品リスクリテラシーの構造：学歴と批判的思考態度の影響」(共著) 2009 (平成21)年日本心理学会第73回大会発表論文集 (於：立命館大学) (86頁) (平山るみ、楠見孝)

■「健康食品の効果と副作用判断に及ぼすサンプルサイズ情報の影響」(共著) 2008 (平成20)年日本心理学会第72回大会発表論文集 (於：北海道大学) (951頁) (平山るみ、楠見孝)

■「高校国語科における批判的読解指導効果」(共著) 2007 (平成19)年日本教育心理学会第49回総会発表論文集 (於：文教大学) (63頁) (楠見孝、平山るみ、田中優子、富江宏)

■「批判的思考と科学および情報リテラシーとの関連性」(共著) 2007 (平成19)年日

本心理学会第 71 回大会発表論文集（於：東洋大学）（842 頁）（平山るみ、楠見孝）

■「科学的情報の判断に関わる知識および批判的思考」（共著）2006（平成 18）年日本心理学会第 70 回大会発表論文集（於：九州大学）（平山るみ、楠見孝）

■「批判的思考能力と科学的リテラシーがリスク認知に及ぼす効果」（共著）2006（平成 18）年日本教育心理学会第 48 回総会発表論文集（於：岡山大学）（258 頁）（平山るみ、楠見孝）

■「The effects of critical thinking and information monitoring process on the conclusion drawing from contrary information」（共著）2005（平成 17）年 6th Annual Meeting, Society of Judgment & Decision Making（於：Toronto, Canada）（平山るみ、楠見孝）

■「批判的思考態度および能力と健康情報の判断との関係性」（共著）2005（平成 17）年日本教育心理学会第 47 回総会発表論文集（於：浅井学園）（512 頁）（平山るみ、田中優子、山縣宏美、楠見孝）

■「認識論的信念と批判的思考との関連性の検討」（共著）2005（平成 17）年日本心理学会第 69 回大会発表論文集（於：慶応義塾大学）（901 頁）（平山るみ、楠見孝）

■「The effect of one's disposition and ability on critical thinking process」（共著）2004（平成 16）年 25th Annual Conference, Society of Judgment & Decision Making（於：Minneapolis, USA）（平山るみ、楠見孝）

■「批判的思考態度が対立情報の探索過程に及ぼす効果」（共著）2004（平成 16）年日本教育心理学会第 46 回総会発表論文集（於：富山大学）（510 頁）（平山るみ、楠見孝）

■「批判的思考能力と知能および態度との関連性：コーネル批判的思考テストを用いての検討」（共著）2004（平成 16）年日本心理学会第 68 回大会発表論文集（於：関西大学）（873 頁）（平山るみ、田中優子、河崎美保、楠見孝）

■「クリティカル・シンキングを用いた大学演習授業：態度および課題成績からの検討」（共著）2003（平成 15）年日本教育工学会第 19 回全国大会発表論文集（於：岩手県立大学）（375-376 頁）（平山るみ、武田明典、楠見孝）

■「クリティカル・シンキングを用いた大学演習授業：実践報告」（共著）2003（平成 15）年日本教育工学会第 19 回全国大会（於：岩手県立大学）（377-378 頁）（武田明典 楠見孝）

■「批判的思考を支える態度が読解プロセスに及ぼす影響」（共著）2003（平成 15）年日本心理学会第 67 回大会発表論文集（於：東京大学）（905 頁）（平山るみ、楠見孝）

■「批判的思考態度と課題成績との関連性：ワトソン・グレーザー課題と読解カリテラシー課題を用いて」（共著）2002（平成 14）年日本教育心理学会第 44 回総会発表論文集（於：熊本大学）（260 頁）（平山るみ、楠見孝）

■「批判的思考を支える態度と個人特性との関連性」（共著）2002 平成 14 年日本心理学会第 66 回大会発表論文集（於：広島大学）（825 頁）（平山るみ、楠見孝）

その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ (自主企画)「批判的思考態度尺度の基礎研究と教育実践への利用可能性」における話題提供『批判的思考の測定尺度研究の成果 ～批判的思考態度研究から批判的思考教育を考える～』(単著) 2011 (平成 23) 年日本教育心理学会第 53 回総会 (於: 北海道学校心理士会・北翔大学) ■ 「市民の食品リスク・リテラシーの構造: 学歴と批判的思考態度の影響」(共著) 2010 (平成 22) 年科学研究補助金 (基盤 (A)) 助成研究報告書 課題番号 19208021 科学を基礎とした食品安全行政/リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立 (最終報告書) (113 頁-128 頁) (楠見孝、平山るみ)
教育実践記録等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『大学教育および教職課程における批判的思考育成の重要性』(単著) 2014 (平成 26) 年 大阪音楽大学教育研究論集 ■ 『批判的思考を支える態度および能力測定に関する展望』(単著) 2004 (平成 16) 年 京都大学教育学研究科紀要, 50 巻 (290-302 頁)



藤本 敦夫 (ふじもと あつお) 教授

担当科目

教職入門Ⅰ 教育学概論 生徒指導論Ⅱ (進路指導を含む。) 教育実習の研究
 教職実践演習 (中) 教育学特論

所属・職位	大阪音楽大学 音楽学部 音楽学科 教授
学位	京都大学教育学修士
学歴	1982 (昭和 57) 年 京都大学教育学部卒業 (教育社会学科教育行政学専攻) (教育学士) 1985 (昭和 60) 年 京都大学大学院教育学研究科修士課程修了 (京都大学教育学修士: 教修第 481 号) 1988 (昭和 63) 年 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定 (学修認定) 1991 (平成 3) 年 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程満了退学
主な職歴	1988 (昭和 63) ~2009 (平成 21) 年 親和女子大学非常勤講師 1994 (平成 6) ~1995 (平成 7) 年 大阪音楽大学短期大学部専任講師 1995 (平成 7) ~2006 (平成 18) 年 大阪音楽大学短期大学部助教授 2007 (平成 19) ~2010 (平成 22) 年 大阪音楽大学短期大学部准教授 2011 (平成 23) 年 大阪音楽大学短期大学部教授 2012 (平成 24) 年~大阪音楽大学音楽学部教授 (現在に至る)

専攻（専門分野）	教育行政学、教育法規、教育制度、教師論、教員養成制度等
担当科目	「教職入門Ⅰ」「教職入門Ⅱ」「教育学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅱ」「生徒指導論Ⅱ（進路指導を含む）」「教職実践演習（中・高）」
研究テーマ	青年期教育制度論、地方教育行政研究、教育と人権、最近は大学生論や若者文化への社会史的アプローチ等に関心があります。
教育方針	「既存の教育のあり方に対する疑問」というのが、僕が教育学分野を専攻したそもその動機です。これまでの教育の世界の「思い込み」を排し、自分なりの授業のあり方・学生との接し方を考えてきたつもりです。指導方針の基本は「学生を大人として（あるいは大人になることを期待して）接する」「学生を信頼する」「学生に自由とそれに見合った責任を課す」といったところでしょうか。
所属学会・団体等	、日本教師教育学会、日本臨床教育学会
最近の業績	<p>教育実践記録等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「教員養成における短期大学の役割と可能性～大阪音楽大学短期大学部を事例として」（日本教師教育学会課題研究会『課題研究Ⅲ：教師教育の高度化 研究報告書』）2014（平成26）年9月 近年の教師教育の「高度化」の動向の中でとすれば軽視されがちな短期大学部における二種免許状課程の意義と実績を明らかにしようとしたものである。 ■「教師像における「教養」の意義」（『大阪音楽大学教育研究論集 創刊号』）2014（平成26）年2月 近年の教員養成制度改革に関わる各種政策文書の分析を通じ、そこで求められている教師像や資質能力の変化を批判的に検討した。近年の政策文書が求める「教養」の中身が狭い職能的教養に矮小化されていることを指摘するとともに、教員の資質として「幅広い教養」を再評価するべきことを問題提起した。また、音楽大学の学生に読まれることも意識して、シューベルトの歌曲『魔王』の教材研究にあたって必要なアプローチを事例として取り上げた。 ■「教職を含むさまざまな人生選択～大阪音楽大学短期大学部『教職入門』における授業実践」（『阪神教協リポート No.37』）2014（平成26）年3月 本学の「教職入門」は、学生と比較的年齢の近いさまざまな職業・個性を持つ卒業生を特別講師に招いての講義が魅力となっている。学生の現状分析や学修ニーズを踏まえての授業デザインの実例としての意義もあると思われる。 ■「大学改革と教員養成制度改革をめぐる論点」（『阪神教協リポート No.36』）2013（平成25）年2月 2012年8月の中央教育審議会の日本の答申の比較分析を行い、教員養成制度改革を単独で進めるのではなく、大学教育の「質保障」を優先させつつそれと連動し構想すべきと考え、課題を提起した。 ■「教師教育と大学の役割～大阪音楽大学教員免許状更新講習（共通必修領域）の経験を総括して」（『大阪音楽大学研究紀要 第50号』）2012（平成24）年3月

	<p>本学の更新講習は、受講者による事前の課題意識アンケートの分析を踏まえて、受講者のニーズを掘り起こし、それに応えるという筋道で講習内容も毎年更新している。その経験を踏まえて、大学が現職教育に果たしうる新たな役割を考察した。</p> <p>■「教育改革と生徒指導—教育制度の全般的道德教育化」（『大阪音楽大学研究紀要第49号』）2010（平成22）年12月</p> <p>2006年の教育基本法改正、2007年の学校教育法大改正、2008年の学習指導要領改訂という一連の教育改革の全体像を俯瞰しつつ、2010年の『生徒指導提要』に至る生徒指導の厳格化の動向を分析した。</p> <p>■「教職に関する意識調査」（喜多忠正、角谷史孝と共著『大阪音楽大学研究紀要第47号』）2008（平成20）年12月</p> <p>本学教職課程履修者を対象に教職科目が受講生の教員志望意欲にどのような影響を与えているか、また、それらの変化と履修者のバックグラウンドとの相関について分析し、教職課程カリキュラム充実のための課題を探った。</p> <p>[テキスト、資料集等]</p> <p>『教育改革の動向/学習指導要領改訂の動向』（大阪音楽大学教員免許状更新講習共通必修領域テキスト 増補版）2014（平成26）年7月</p> <p>2009年以来、毎年最新の教育時事に関する補論を増補し、受講者のニーズに応じている。A5サイズ約60ページ。</p> <p>『解説資料 教育改革と教育法規 2014年版』2014（平成26）年4月</p> <p>2000年以後毎年改訂。最新法規と教育時事を盛り込んだ資料集。授業の他、各種講演等でも使用。</p>
<p>その他</p>	<p>「授業力」や「教材づくり」について定評があり、学生による授業評価アンケート並びに教職部会による教職課程履修学生の意識調査においても評価が高い。教員採用試験対策学習会やクラブ活動の顧問も引き受けるなどの課外活動の支援に取り組んでいる。また、日常的な学生とのコミュニケーションやさまざまな学生相談を通じて教職課程履修学生以外の学生の信頼も厚い。このことが評価されて平成18年度-21年度の二期四年間、学生部長に任じられるなど、担当授業以外でも教育力・指導力を発揮している。また、ライブハウスやカフェ等と交渉し会場費無料のコンサートを開催し、経済的負担なしに発表する場を学生に提供するなど、学生の演奏活動の支援も活発に行っている。</p> <p>全国私立大学教職課程研究連絡協議会 特別委員会「教員養成制度検討委員会」委員ならびにワーキング・グループメンバー（2012（平成24）年5月～現在）</p> <p>全国私立大学教職課程研究連絡協議会 教員養成制度検討委員会編『教員養成制度改革資料集2』編集委員（2014（平成26）年）</p>

	<p>2008（平成 20）年 厚生労働大臣指定 （社）全国柔道整復学校協会主催 柔道整復師専科教員認定講習講師 「教育行政」「教育方法」</p> <p>2011（平成 23）年 厚生労働大臣指定 （社）全国柔道整復学校協会主催 柔道整復師専科教員認定講習講師 「教育行政」「教育方法」（2015 年（平成 27）年 10 月まで）</p>
--	--



橋本 龍雄（はしもと たつお）教授

担当科目

教職入門Ⅰ 教職入門Ⅱ 音楽科指導法 音楽科教材研究 A（創作指導法）
 音楽科教材研究 B（（創作指導法） 特別活動の研究 教育方法論 教育実習の研究
 教職実践演習（中）

所属・職位	大阪音楽大学 音楽学部音楽学科 教授
学位	修士（教育学）
学歴	1978(昭和 53)年 大阪教育大学教育学部保健学科小学校課程卒業 1994(平成 6)年 大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程音楽教育専攻音楽科教育学専修 修了
主な職歴	1978(昭和 53)～1988(昭和 63)年 大阪府寝屋川市立明和小学校教諭 1988(昭和 63)～1996(平成 8)年 大阪府寝屋川市立梅が丘小学校教諭 1994(平成 6)～2000(平成 12)年 大阪教育大学非常勤講師（兼業） 1996(平成 8)～2000(平成 12)年 大阪府四条畷市立四条畷小学校教諭 2000(平成 12)～2001(平成 13)年 大阪教育大学非常勤講師 2000(平成 12)～2007(平成 19)年 福井大学教育地域科学部芸術・保健体育教育講座 助教授 2001(平成 13)年 奈良教育大学大学院教育学研究科非常勤講師 2002(平成 14)年～2014(平成 26)年 大阪音楽大学非常勤講師 2002(平成 14)年～現在に至る 大阪音楽大学短期大学部非常勤講師 2005(平成 17)～2006(平成 18)年 放送大学非常勤講師 2007(平成 19)年 福井大学教育地域科学部芸術・保健体育教育講座 准教授 2007(平成 19)～2014(平成 26)年 福井大学教育地域科学部芸術・保健体育教育講座 教授

	2008(平成 20)～現在に至る 大阪音楽大学指導者研修講師 2010(平成 22)年 放送大学非常勤講師 2015 (平成 27) 年 4 月～現在に至る 大阪音楽大学音楽学部音楽学科 教授
専攻 (専門分野)	音楽教育学、授業実践論、教材開発
担当科目	「教職入門Ⅰ」「教職入門Ⅱ」「音楽科指導法Ⅱ」「特別活動の指導法」「教育実習の指導」「教職実践演習(中・高)」
研究テーマ	古代楽器「土笛」を用いた総合的実践研究 小・中学校における教材開発 授業におけるコミュニケーション(特にノン・バーバル・コミュニケーション)
教育方針	1.自分のことは自分で考え、行動に移すことを重視する。 2.自身が問題点をみつけ、それを解決するために試行錯誤しようとする姿勢を高く評価する。 3.結果よりプロセス重視。
所属学会・団体等	日本学校音楽教育実践学会
最近の業績	<p>著書</p> <p>■『学習指導要領&音楽のおくりもの』(共著)2014(平成26)年5月教育出版 平成27年度より新しい小学校音楽教科書を使用するに当たり、学習指導要領における共通事項や歌唱指導、器楽指導、鑑賞指導、音楽づくりをどのように考えて授業を進めるべきか。学習指導要領の具体的な教科・指導内容とをリンクさせて解説・詳述した。(pp.1～12)長島真人、橋本龍雄 共著。</p> <p>■『楽しく基礎が身に付く!新しい授業アイデア集』(単著)2014(平成26)年4月教育出版 子どもを前にして、教えるべき「指導内容」を、どのようなことば掛けから授業を始め、子どもとのやりとり(コミュニケーション)をどう進めればよいのか。これまで教師当人任せになっていた部分を、映画や芝居と同じ「脚本」という形で文字に著した。「脚本」を徹底的に読み込むことによって、音楽が苦手な教師であっても、具体的な授業のイメージを持つことができる。1年生から6年生まで学年毎計7つの基礎的な指導内容の「脚本」を設定した。書名の「新しい」の所以がここにある。</p> <p>■『世界楽器めぐり 進め!ドレミ隊』(監修)2012(平成24)年7月～2013(平成25)年3月 朝日学生新聞社 朝日小学生新聞毎週水曜掲載、全39回 日本を含む世界の諸民族の楽器150種類を、「音楽室の楽器、バンドの楽器、民族楽器、オーケストラの楽器、日本の楽器」の項目に「吹く、打つ、弾く、こする、振る」の奏法を分け、楽器の特徴や構造、ルーツや伝播の歴史、楽器が生まれる現地の人々の生活、学校教育への利用等を小学生にわかる言葉と文章で解説・紹介した。 監修として、楽器学・音楽学・文化人類学および音楽教育学の最新の研究成果を踏まえて、掲載する楽器の詳細な資料を作成すると共に、原稿の最終校正を行った。 執筆は資料を元に記者3名(水野麻衣子、猪野元健、駒形麻弓)が本文を、絵本作家(新井洋行)が4コマイラストを担当した。</p> <p>■『楽しいリコーダー』(共著)2011(平成23)年1月 教育出版 小学校3年生(リコーダー導入期)からのリコーダー教則本として、執筆・編集した。進捗は</p>

	<p>他に類がない程ゆっくりと設定し、各々の練習曲を子どもなりに十分に楽しんで演奏できるような工夫（手拍子や歌と一緒に演奏したり、伴奏なしでもアンサンブルが楽しめるような編曲、「ラーメン一丁」のような身近な話題の作品、「あの丘に続く道」「風の応援団」等の様々なイメージが持てる題名、学習初期に単旋律で演奏した曲が、後期には二重奏で登場する等）を凝らして編集した。掲載曲全 50 曲。（p p.1～40）金子健治、橋本龍雄</p> <p>■『新訂版 小学校音楽科の学習指導-生成の原理による授業デザイン-』（共著）2011（平成 23）年 11 月 曠濟堂あかつき</p> <p>先に発行した拙著の内容を全面改訂し、「自ら学び自ら考える力」を育てるために有効な「生成の原理」を枠組みに、教科の目標・指導内容、指導計画、授業の実践、評価・評定など、小学校音楽科の授業を展開する際や教員養成において必要になるすべての内容を詳述した。</p> <p>分担部分は、「Ⅲ 音楽科目の指導計画 1.年間指導計画の作成」。</p> <p>指導内容に焦点を当てて、年間指導計画を作成するには何をどのように考え、何を準備し、どのような手順で、どう書いていけばよいかを具体的事例を挙げて詳細に述べた。</p> <p>改訂に当たり、平成 27 年度より小学校音楽科教科書の発行元が、2 社（教育出版、教育芸術社）に減ることが明らかになったので、年間指導計画の基本事例を 2 社の教科書を前提に書き改めた。（p p.35～38）</p> <p>執筆者：小島律子、西園芳信、橋本龍雄、田中龍三、松永洋介、松本絵美子、宮下俊也、吉村治広、小川由美、斉藤百合子、坂本暁美、牧野利子、衛藤昌子、井上薫、笠井かほる、金指初恵、楠井晴子、小林佐知子、島川香織、清水美穂、高橋澄代、竹内悦子、寺田巳保子、董芳勝、廣津友香、松本康子、矢部朋子。</p> <p>■『小学校音楽科教育法-創造あふれる音楽活動のために-』（共著）2009（平成 21 年）4 月 教育出版</p> <p>小学校音楽教師の養成に役立つ基本的な考え方や具体的な実践を紹介し、音楽科教育に関する基礎知識を解説するとともに、指導案の書き方、指導のポイント、指導の具体例など実践的な内容を盛り込んだ。</p> <p>分担部分は、「第 7 節『楽器づくり』でひらく音楽活動」。</p> <p>楽器づくりを中心とした音楽活動は自分の楽器を作り、音の発見や探究を通して音楽をつくり、記譜し、演奏し、批評・鑑賞する一連の音楽活動すべてを体験することに意義があることを、具体的事例を基に詳述した。（p p.134～140）</p> <p>執筆者：宮野モモ子、本多佐保美、橋本龍雄、中島寿、島崎篤子、中嶋俊夫、伊藤誠、徳田崇 他 15 名。</p> <p>■『小学校音楽科の学習指導-生成の原理による授業デザイン-』（共著）2009（平成 21）年 2 月 曠濟堂あかつき</p> <p>「自ら学び自ら考える力」を育てるために有効な「生成の原理」を枠組みに、教科の目標・指導内容、指導計画、授業の実践、評価・評定など、小学校音楽科の授業を展開する際や教員養成において必要になるすべての内容を詳述した。指導案事例は、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞・表現と鑑賞の関連の全活動分野を網羅した。</p> <p>分担部分は、「Ⅲ 音楽科目の指導計画 1.年間指導計画の作成」。</p> <p>指導内容に焦点を当てて、年間指導計画を作成するには何をどのように考え、何を準備し、</p>
--	--

	<p>どのような手順で、どう書いていけばよいかを具体的事例を挙げて詳細に述べた。(p p.32~36)</p> <p>執筆者：小島律子、西園芳信、橋本龍雄、宮下俊也、松永洋介、吉村治広、松本絵美子、齋藤百合子、田中龍三、寺田巳保子、衛藤昌子、小川由美、井上薫 他 17 名。</p> <p>■『New Type Ensemble of Music ケチャ・パーティー』(編著) 2007 (平成 19) 年 6 月教育出版</p> <p>これからの学校における音楽教育は、「創作」が鑑賞とからめてかなり重視されることになる。それに対応する教材集として、「音楽の構造」に焦点をあてて選曲・編曲・編集を行い、創作活動へのヒントを盛り込んだ内容の新しいタイプのアンサンブル曲集を作成した。</p> <p>また後半のベーシック・エチュードは、ピアノ伴奏譜付きのオリジナル作品 9 曲(主に小学 1 年～4 年生対象)を掲載した。(南山萌および里山萌は橋本龍雄の筆名。)</p> <p>曲名はレッツゴーパーティー、「ケチャ」のりずむ、魔法のフルーツバスケット、くいしんぼうのラップ、は・や・く・ち ラップ、ケチャ・パーティー、はやしことばメドレー、瓜売りの声、蛙と馬と福助と、日本民謡づくし、スナップ フィンガー、ロック マイ ソウル、女医振るコンビネーション、Groove II、ピーナツ ヘンダー他。</p> <p>■『大学教育から公開講座・ワークショップへ伝えられるもの -学生の「ジャワ島のガムラン」音楽受容へのアプローチを中心に-』(単著) 2007 (平成 19) 年 3 月 福井大学教育地域科学部博物館学研究室 全 52 頁 (p p.39~52)</p> <p>大学の授業において行った「ジャワ島のガムラン」音楽の学習で得ることができた教育内容や教育方法の成果を検討し、地域貢献の一つである大学公開講座やワークショップにおいて、一般参加者に伝えることができる有効な要点は、学習方法に関して 2 点 (①合奏→パート練習のサイクルをくり返す、②個人練習は合奏後に行う) と、演奏へのアドバイスに関して 8 点 (音楽構造や音楽の構成の告知、合奏における合わせ方、演奏内容に対応させた楽器のグループ化、五線譜ではない図式化した楽譜の提供等) を明らかにした。</p>
<p>教育実践記録等</p>	<p>■『すこいぞ「イマドキの音大生」-創作指導法の授業より-』(単著) 2014 (平成 26) 年 2 月大阪音楽大学教育研究論集 創刊号 大阪音楽大学教職研究会 (p p.47~53)</p> <p>音楽大学の教材研究 (創作指導法) の授業における、表現活動としての創作指導をめぐる学生の様相を明らかにすることを目的とした。その結果、①創作の授業映像を基にした事例研究では、子どもの興味・関心のあり所と授業者の子どもへの接し方についての問題点を的確に指摘し、創作指導の要点を把握していた。②環境音の聴取と描画では、採集した音は描画によってイメージ化され、採集場所の景色や匂いをも描画とともに配色や画面構成を考えて表現している。③楽器制作と音楽づくりでは、特に楽器づくりへの関心が強く、自分では不得意な工作も、他の学生に教えてもらいながら完成させていた。音楽づくりでは即興演奏が得意であった。</p> <p>■『「音」を単元とした音楽科と図面工作科との合科による協働授業の試み-「土笛づくりを中心に-』(単著) 2010 (平成 22) 年 3 月学校音楽教育研究第 14 巻 日本学校音楽教育実践学会 (p p.197~198)</p> <p>本論では授業実践の中の「土笛づくり」に焦点を当てて、協働授業に対する学生の評価と授</p>

	<p>業者の実践上の要点を明らかにすることを目的とした。その結果、教育的意義と授業内容に高い評価を示した。しかし、授業者の立場としての子どもに対する学習評価への不安と困難さを多く感じていた。また、「土笛づくり」では、教材や指導内容の評価は高いが、土笛を鳴らす技術面の指導に問題が残るとの評価があった。合科協働授業の実践上の要点は、①授業者の相互理解、②学生側の授業評価の分析、③授業中の授業者相互の意識と行動内容、④授業計画立案に要する時間の確保、の4点が明らかになった。</p> <p>■『楽譜を媒介としない音楽指導の様相—アフリカの太鼓「ジェンベ」の指導を通して』（単著）2009（平成21）年3月 学校音楽教育研究第13巻 日本学校音楽教育実践学会（pp.69～70）</p> <p>アフリカの太鼓「ジェンベ」の音楽指導において、楽譜を媒介としない音楽指導の様相を、ジェンベ演奏家・指導者のジェセフ・ンゴシの指導を通して明らかにすることを目的とした。その結果、精神面では、演奏に向けての心構えとして、「先ず楽しく、勉強は後で。」技術面では、段階的にまねる→まね+リズムの積み上げ→生徒の基本リズムと指導者のアドリブとのアンサンブルが行われた。指導内容では、音色創出の重要性の理解、アンサンブルにおけるコミュニケーションの自覚。</p> <p>■『音楽科学生におけるガムラン音楽受容へのアプローチの様相-ジャワ島のガムランの場合-』（単著）2008（平成20）年1月 福井大学教育地域科学部紀要VI 芸術・体育学・音楽編第38号（pp.1～16）</p> <p>初めてガムラン音楽の演奏を体験した音楽科学生が、ジャワ島・ガムラン音楽をどのように受容しようとしたのか、その受容のアプローチの様相を明らかにすることを目的とした。その結果、受容へのアプローチは問題解決の学習そのものであり、その様相は次の3点にまとめることができた。</p> <p>① 響を捉えることができないことから始まる。②演奏しながら自身の演奏経験との格闘（問題解決の活動）が続く。③ガムラン音楽の受容が促進した6つの行動による効果</p> <p>その他 ■『新しい教科書。こんな授業ができる！』（単著）2014（平成26）年3月 Spire_M 小学校版。教育出版編集局編。教育出版全15頁（pp.8～11）</p> <p>平成27年度より新しい小学校音楽教科書を使用することになる。</p> <p>教育出版発行の小学校音楽教科書の著者として、教科書を有効に使い、子どもの学習意欲と効果を最大限に引き出すための具体的な活動を、実践事例を元に項目別に整理して解説した。特に、複数学年に渡って同じリズムを基に学習内容を積み上げていく活動や、教師用指導書のCDの有効な使い方まで言及した。</p> <p>■『うたは心をつなぐ-元ちとせのメッセージをきっかけに』（単著）2011（平成23）年4月 小学校音楽教科書音楽のおくりもの4年、教師用指導書研究編、教育出版（pp.1～20）</p> <p>小学校音楽教科書4年生用のグラビアに掲載された元ちとせの小学生へのメッセージを、「自分の中の（島唄）さがし」、「視点を変えると」、「心をこめてうたう」の三つに立てて、この頁を授業するための教材研究として読み解いた。また、メッセージの主題を「うたは心をつなぐ」とし、気持ちを込めて歌ううたは人から人へつながり、うたう気持ちは心から心へと伝わり、ここに歌い継がれたきたうたを音楽の授業で扱う意義があると述べた。</p>
--	--

	<p>■『音楽は世界を結ぶ（自分と世界がつながる時…）-ヨーヨー・マのメッセージをきっかけに』（単著）2011（平成23）年4月 小学校音楽教科書音楽のおくりもの6年、教師用指導書研究編、教育出版（pp.1～20）</p> <p>小学校音楽教科書6年生用のグラビアに掲載されたヨーヨー・マの小学生へのメッセージを、「よみがえる思い出」、「世界共通のもの」、「自分の生活から世界をつなぐ」の三つに項目を立てて、この頁を授業をするための教材研究として読み解いた。また、メッセージの主題を「自分と世界がつながるとき」とし、音楽を体験するということは、世界中の人と自分自身がつながることができる、大きな出来事だと述べた。</p> <p>■『子どもの秘めた感性と行動力-土笛からむすばれた縁-（音楽×学び 連載④）』（単著）2011（平成23）年9月 Spire_M 小学校版。教育出版編集局編。教育出版全20頁（pp.14～17）</p> <p>古代楽器「土笛」の制作を含む授業実践を朝日新聞やNHK テレビ、ラジオ等が全国版で紹介したことことから派生した、広島市の小学校児童との交流・修学旅行での出会いや、一般の人々との長期間にわたる交流を中心に紹介した。特に、日常の学校生活では知ることの出来なかった子どもの感性と行動力を分析・詳述した。</p> <p>■『子どもの意気込みと、こんなやさしさ。「土笛」づくり…始めた子ども（音楽×学び 連載③）』（単著）2011（平成23）年3月 Spire_M 小学校版。教育出版編集局編。教育出版全20頁（pp.2～5）</p> <p>1985年、古代楽器「土笛」との出会い以来、22年間毎年継続して行った小学校における授業実践の概要と共に、子どもが何故「土笛」に惹かれるのかを、「土笛」の制作過程毎に子どもの活動とその心情を中心に分析、詳述した。同時に新しい土笛のつくり方や独自に開発した野焼きの写真等を掲載して、現職教員の新たな授業実践への参加を期待した。</p> <p>■『子どもだからこそ、ワカルものがある！-楽しさへの予感…「ケチャ」…』（音楽×学び 連載②）』（単著）2010（平成22）年10月 Spire_M 小学校版。教育出版編集局編。教育出版全16頁（pp.8～11）</p> <p style="text-align: right;">著者</p> <p>ケチャと出会い、ケチャの授業実践を始めることで起こった様々な出来事を通して知ることができた、子どもの感覚や興味関心のあり所や子どもなりの論理等、授業実施を通して分析した「子どもの世界」を詳述した。また、ケチャのみならず日本の民族音楽を含む世界の諸民族の音楽の学習には、音楽そのものの理解（テキスト）と文化としての音楽（コンテキスト）の相互往来の必要性を提案した。</p> <p>■『子どもから学ぶ-自身が変わるために、授業が変わるために-（音楽×学び 連載①）』（単著）2009（平成21）年10月 Spire_M 小学校版。教育出版編集局編。教育出版全20頁（pp.10～11）</p> <p>筆者自身の小学校教員時代に、子どもの現実の姿を見ないで、大きな失敗をした実践事例を元に、「子どもから学ぼうとしない限り教師自身は変わらない」と教育実習に行く学生に話した林竹二の教育理念を紹介した。子どもの事実一つ一つがどのような意味を持つのかを、今こそ教師は考える時ではないか。子どもから学ぶということが、これからの授業づくりの大きなヒントになると提言した。</p>
--	---

大野 僚（おおの りょう） 准教授

担当科目

教育学概論Ⅰ 教育学概論Ⅱ 教育方法論

所属・職位	
学位	文学（博士）
学歴	2002（平成14）年 大谷大学文学部 社会学科教育学分野 卒業 文学（学士） 2004（平成16）年 大谷大学大学院文学研究科修士課程 哲学専攻教育学コース 修了 文学（修士） 2007（平成19）年 大谷大学大学院文学研究科博士後期課程 哲学専攻教育学コース 満期退学 2008（平成20）年 大谷大学大学院文学研究科博士後期課程 哲学専攻教育学コース 博士後期課程単位取得 文学（博士）
主な職歴	2005（平成17）年大谷大学文学部ティーチングアシスタント 2007（平成19）～2009（平成21）年 大谷大学文学部 任期制助教 2009（平成21）～ 年 大谷大学短期大学部 非常勤講師 2010（平成22）～ 年 大谷大学 非常勤講師 2010（平成22）～2011（平成23）年 大阪教育大学 非常勤講師 2011（平成23）～2014（平成26）年 大阪経済法科大学 非常勤講師 2011（平成23）年～現在に至る 大阪音楽大学 非常勤講師 2011年（平成23）～現在に至る 神戸女学院大学 非常勤講師 2014（平成26）年～2015（平成27）年 高田短期大学 助教
専攻（専門分野）	教育学、臨床教育学
担当科目	「教育学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅱ」「教育方法論」
研究テーマ	戦後教育思想における教育言説の分析
教育方針	幅広い教養を身につける
所属学会・団体等	関西教育学会、日本教育学会、教育哲学会、教育方法学会
最近の業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「教育と方法—教育評価における原理と方法—」川村覚昭編著『教育の根源』（共著）2011（平成23）年晃洋書房刊 <p>教育活動における評価のなかでも、特に授業評価における諸理論を教育方法論の観点から初学者にも理解しやすいように整理した。教育評価の歴史的変遷に関して制度と原理を紹介し、それぞれの評価の特徴と教育方法学的な課題を指摘した。また、ポートフォリオなどの近年注目されている評価の理論を紹介することで、評価や評定に関する新たな授業評価の動向があることを明らかにした。第七章（105～123頁）を担当。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■『上田薫の人間形成論—新しい教育言説の誕生』（単著）2011（平成23）年学術出版会刊 <p>戦後初期の教育思想を代表する事例として上田薫の社会科教育と道徳教育に見られる教育思想や教育方法に注目した。本書では、彼の人間形成論が教育言説として新たな地平を開くことを、臨床教育学の方法論であるテキスト解釈を参考にし、社会科教育と道徳教育の具体的な教育方法やカリキュラムを入口にして、教育に見られる特有の論理を探り当てること</p>

	<p>ができた。具体的には、彼特有の語りの構造を、特に「経験」概念に焦点化して最新のレトリック研究を方法論に用いながら、従来の経験主義の思想と異なって際立った特質を有していることを論証した。</p>
<p>学術論文等</p>	<p>■「向山洋一の教育論—その語りの形式—」（単著）2005（平成 17）年『関西教育学会紀要』第 29 号</p> <p>向山洋一と斎藤喜博の教育論の「まちがいの授業」を比較検討することで、両者の教育論の違いを検討した。向山の教育論は、多様であるはずの教育技術をマニュアル化していくことで、教育技術とは呼べない瑣末なものまでをも「教育技術」として定着させようとしたことを明らかにした。また、向山の語りの手法が誇張と強調によって説得力をもたせようと試みていることを分析した。</p>
<p>教育実践記録等</p>	<p>■『方法としての子ども研究—経験カリキュラムにおける実践記録を中心に—』2014 年 2 月 大阪音楽大学教育研究論集（67～75 頁）</p> <p>学校教育において望ましい子どもの成長や特性を育むために工夫されたカリキュラムにて取り組みを行っている実践を参考にして、子どもに対する多様な研究の特徴について考察した。その際に、経験主義教育のカリキュラムの実践記録を事例として、子ども特有の理解の仕方や教師の子ども理解に対する視点を読み取ることで子ども研究として展開されていることを明らかにした。</p> <p>■口頭発表「授業における「カルテ」の有用性」2008（平成 20）年"平成 20 年度大谷大学哲学会秋季研究会</p> <p>「カルテ」という教育技術が授業場面で活用されることで、子どもを理解する手がかりになると同時に、「カルテ」の有効性が授業を離れた後も人間理解の手法として成立していることを提示した。「カルテ」は授業における実践的な技術として成立しているだけでなく、教師や子どもを含めた学級および、学校活動における人間理解を捉え直すことのできる方法でもあった。</p>

串崎 真志（くしざき まさし） 講師・関西大学文学部総合人文学科教授

担当科目

生徒指導論 I（教育相談を含む）

<p>所属・職位</p>	<p>関西大学文学部総合人文学科教授</p>
<p>学位</p>	<p>博士（人間科学）大阪大学</p>
<p>学歴</p>	<p>1993（平成 5）年 愛媛大学法文学部文学科心理学専攻卒業</p> <p>1999（平成 11）年 大阪大学大学院 人間科学研究科 教育学専攻 博士課程後期課程修了</p> <p>2000（平成 12）年 総合研究大学院大学 文化科学研究科 国際日本研究専攻 博士課程後期課程中途退学</p>
<p>主な職歴</p>	<p>2000（平成 12）～2004（平成 16）年 同志社女子大学生生活科学部 人間生活学科専任講師</p> <p>2004（平成 16）～2007（平成 19）年 関西大学文学部総合人文学科助教授</p> <p>2007（平成 19）～2011（平成 23）年 関西大学文学部総合人文学科准教授</p>

	2011（平成 23）年～ 関西大学文学部総合人文学科教授（現在に至る）
専攻（専門分野）	心理学（臨床心理学）
担当科目	生徒指導論 I（教育相談を含む）
研究テーマ	カウンセリング場面におけるカウンセラーとクライアントの相互的な影響過程をふまえた心理療法論、セルフケア、共感的理解、治療的变化についての基礎研究
教育方針	各種教材や体験課題を通して自己理解力（自分をふりかえる力）を養い、それをもとに生徒を理解できるように工夫している
所属学会・団体等	日本心理学会、日本心理臨床学会、日本人間性心理学会、日本箱庭療法学会、日本認知・行動療法学会
最近の業績	<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ■『子どもの発達障害・適応障害とメンタルヘルス』（共著）2010（平成 22）年ミネルヴァ書房刊 「学業不振児の心理学的理解と支援」を担当。学業不振の児童生徒に対して自己調整学習（自分自身の学習状況について知ること）を促すアプローチを概説し、後半では虐待によって情緒発達が歪み、そこから学業不振に陥っている事例を考察した。 ■『絶対役立つ教養の心理学』（共著）2009（平成 21）年ミネルヴァ書房 「第 8 章人を支える、人に支えられる」p.189～209 を担当。カウンセリングを受ける立場からカウンセリングについて概説した。カウンセリングの申込み方、そのプロセス、よいカウンセラーの見分け方などについて述べた。 ■『健康と暮らしに役立つ心理学』（共著）2009（平成 21）年北樹出版 「第 10 章自分をみつめる方法」p.113～p.122 を担当。対人援助職にある人が仕事のストレスを自分でどのようにケアするか、その具体的な方法を解説した。ストレスに悩み、精神疾患を余儀なくされる教師は多い。これから教師を目指す大学生は、ストレスを自分でケアできる資質をぜひ備えておくことが望ましい。そのようなセルフケアの方法について解説した。 ■『カウンセリングとソーシャルサポート』（共著）2007（平成 19）年ナカニシヤ出版 「第 1 章カウンセリングとサポート活動：カウンセラーが地域で活動するために必要な 6 つのこと」p.3-16 を担当。事例を通して地域で活動するためには何よりも即時性（フットワークのよさ）が必要であることを指摘した。そして状況を良く見て判断すること、ときには状況の流れに判断を委ねてみるのが物事を展開させることを示唆した。 ■『暮らしに活かす福祉の視点』（共著）2006（平成 18）ミネルヴァ書房 「第 6 章子どもの成長と地域における子育て支援」p.107～122 を担当。被虐待児童生徒の回復及び親に対する再発防止を目指す、学校、行政、地域（民生委員等）の地域連

教育実践記録等	<p>携システムの取り組みを紹介した。</p> <p>■『研究論文で学ぶ臨床心理学』（共著）2006（平成 18）年ナカニシヤ出版 「第 3 章遊戯療法」を担当。子ども中心プレイセラピーの立場、アドラー派、親子療法のそれぞれについて研究論文を要約しながら紹介した。</p> <p>■『地域実践心理学〔実践編〕』（共著）2006（平成 18）年ナカニシヤ出版 被虐待児童生徒に対して自然の中で共同生活することで豊かな自然体験と生活指導を目指す「キャンプ療法」、自閉症や発達障害をもつ子どもに対して豊かな情緒の育成を目指す「音楽療法」、不登校児童に対する居場所づくりなど、コミュニティー（地域と学校・専門家とボランティア）の取り組みを紹介した。</p> <p>■「キャンプ療法における運営の工夫」（単著）2006（平成 18）年「平成 17 年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書」（関西大学大学院社会学研究科）p.41-48 被虐待児童生徒に対して自然の中で共同生活することで生活指導と豊かな自然体験を目指す「キャンプ療法」について、その運営の工夫について述べた（企画と予算、ロケーションとプログラム、スタッフとボランティア、集合と解散、病気とケガ、トラブルとその対処、子どもの成長など）。</p> <p>■「日常的支えが主観的幸福観に及ぼす影響」（共著）2006（平成 18）年「平成 17 年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書」（関西大学大学院社会学研究科）p.189-202 日常的支え尺度を作成し、心理的支え、意地、主観的幸福感との関連を検討した。日常的支えが主観的幸福感、心理的支え、意地の各変数に影響しちえているというモデルが得られ、日常の小さなやりとりが、私たちを大きく勇気づけていることが示唆された。</p> <p>■「意地尺度（短縮版）の作成」（共著）2006（平成 18）年「平成 17 年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書」（関西大学大学院社会学研究科）p.177-187 意地を張りやすい程度の個人差を測る尺度を作成し、素直になれない状態から、頑固の段階を経て、意志の強さに変化するという個人内の過程を示した。</p> <p>■「クラスター分析で見た意地の 4 種類」（共著）2006（平成 18）年「千里山文学論集」（関西大学大学院文学研究科院生協議会）p.91-100 意地を張りやすい状況についての基礎研究。素直でない自分が前面に出てしまうと、自分の気持ちを引くに引けず意地を張ることになる。それは裏返せば「理解されたい」という気持ちの一形態であると示唆された。</p> <p>■「テーマプロジェクト『地域実践心理学』この一年の経過報告」（共著）2006（平成 18）年「関西大学文学論集」p.101-109 関西大学文学部で 2005 年から実施したテーマプロジェクト「地域実践心理学」（専修枠を</p>
---------	--

	<p>超えた心理学教育の試み) について、大学内における大学生のための居場所 (コミュニティ) づくりの試み、地域社会の問題に対して臨床心理学からのアプローチの可能性を紹介した。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2000 (平成 12) 年～現在に至るまで 年 2 回実施される「ひきこもり等児童宿泊等指導事業」(厚生労働省による事業で児童相談所が実施する、不登校の子どもの生活指導と豊かな自然体験を目指す) に参加し、子どもの理解と支援についての助言 (スーパービジョン) を行っている。 ■ 2006 (平成 18) ～2009 (平成 21) 年 学部生・大学院生が中心となり地域の自閉症のこどもたち 4 人に対して、ほぼ毎月 1 回、行動療法に基づく言語形成やソーシャルスキルトレーニングのプログラム、宿題などの学習補助等の支援を行った。 ■ 2005 (平成 17) ～2009 (平成 21) 年 大阪府吹田市内の小中学校で、ゼミ受講生がほぼ毎週 1 回、当該小中学校にボランティアとして参加し、主に発達障害をもつ児童生徒の教科指導の補助や運動会などの学校行事の補助を行うことにより、教育現場で子どもの気持ちを理解し支援する方法を学ばせた。 ■ 1995 (平成 17) 年～2008 (平成 20) 年まで 週 1 回津市家庭児童相談室において、家庭相談員として相談業務を行った。



星田 一山 (ほしだ いちざん) 講師

担当科目

音楽科教材研究 A (器楽指導法)

音楽科教材研究 B (器楽指導違法)

所属・職位	大阪音楽大学短期大学部 講師
学位	学士 (音楽)
学歴	1980 (昭和 55) 年 大阪音楽大学音楽学部器楽学科箏専攻卒業
主な職歴	1999 (平成 11) 年～現在に至る 大阪音楽大学 非常勤講師 1999 (平成 11) 年～現在に至る 大阪音楽大学短期大学部 非常勤講師
専攻 (専門分野)	尺八・三絃
担当科目	「音楽科教材研究 A (器楽指導法)」「音楽科教材研究 B (器楽指導違法)」
研究テーマ	古来より伝えられている本曲と三曲合奏に基本をおいて伝統的な「音」を追求しながら、尺八で表現できるさまざまなジャンルの音楽に取り組んでいます。

教育方針	基礎訓練を徹底する・復習が一番
所属学会・団体等	都山流尺八楽会竹琳軒大師範、都之雨社（としゅうしゃ）会長、都山流尺八楽会 都山流講士、関西邦楽作曲家協会会員、邦楽合奏団 鼎常任指揮者
最近の業績 教育実践記録等 その他	<p>■在学中 人間国宝 菊原初子氏に三絃を、箏を須山知行、中島警子両氏に師事。</p> <p>1981（昭和 56）年 都山流尺八楽会 准師範試験首席合格 都山流尺八楽会より特別賞を授与される。</p> <p>1984（昭和 59）年 都山流尺八楽会 師範試験 首席合格 「グリーンリボン新人賞」授賞。</p> <p>1985（昭和 60）年 大阪文化祭 奨励賞を授賞 都之雨社定期演奏会で「春の恵」の演奏に対し。</p> <p>1987（昭和 62）年 都山流尺八楽会主催 本曲コンクール全国大会において2位金賞（1位無し）。文部大臣賞を授賞</p> <p>1988（平成元）年 都山流尺八楽会 大師範 に昇格。</p> <p>1994（平成 6）年 都山流尺八楽会主催 本曲コンクール全国大会において一位金賞、文部大臣賞を再度授賞。</p> <p>1998（平成 10）年 平成 9 年度 大阪文化祭 奨励賞 受賞。</p> <p>1998（平成 10）年 古典の会 夢遊児歌（むーじか）による三曲合奏のCDを発表。</p> <p>1999（平成 11）年 CD「雫」発表 オリジナル全9曲 作曲、演奏を手がけ、水をテーマにさまざまな水の形態を尺八と水の音で表現。</p> <p>2002 年平成 14 年 都之雨社（としゅうしゃ）会長に就任都山流尺八楽会。 竹琳軒（ちくりんけん） 允許</p> <p>2004 年平成 16 年 10 月 10 日 三代 星田一山 襲名。 10 月 11 日三代星田一山襲名披露演奏会を大阪の厚生年金会館芸術ホールで開催</p> <p>■審査員活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都山流尺八楽会大阪府支部 本曲コンクール 審査員 ● 都山流尺八楽会本部主催 本曲コンクール全国大会 審査員 ● 兵庫県高等学校邦楽コンクール 審査員長 ● 国際尺八コンクール本選 審査員